広報ひらつか

市制記念特集号

平成７年４月１日（特集第49号）

発行・神奈川県平塚市　編集・企画部広報広聴課

〒254 平塚市浅間町９番１号　電話23-1111・35-1111

個性と魅力ある街

湘南ひらつか都市づくり

新年度予算の考え方

四月一日は、市制記念日です。平塚市は昭和七年四月一日に市制を施行してから六十三年目を迎えます。

市は、二十一世紀を間近に控え、新平塚市総合計画に基づき「きらめく海緑の丘　創造とうるおいの湘南の都市（まち）　ひらつか」の将来像に向けて、心ふれあう豊かなまちづくりを進めています。しかし、我が国を取り巻く内外の情勢変化は、激しいものがあります。国政の中でも歴史に残る大きな出来事が相次いで起こるなど、今「変革」のときにさしかかっています。

また、国内の経済は「緩やかな回復の方向に向かっている」と言われるものの、「回復感なき回復」とも言われるように、依然として低迷しています。国民所得の伸び悩み、終身雇用制度の見直し、新卒者の就業機会の減少、雇用不安など国民生活に明るさが見えてきません。

さらに、市財政も厳しい状況にあり、行政改革に一層努める必要があります。しかし、行政の停滞はもとより、質的低下は許されません。そこで、市民本位の魅力ある街づくりを目指すため、市民のニーズと社会情勢を見定めながら、だれからも愛され、個性と魅力にあふれた「都市（まち）づくり」を進めます。

平成七年度の当初予算は、統一地方選挙であり、四期十六年間勤めた石川京一市長も勇退することから骨格予算です。そのため、市民生活に支障をきたすものと、継続事業を中心に当初予算を編成しています。

1、急速に進む高齢化社会に向けて、高齢者、障害者の各種相談を始め、機能回復訓練用の温水プール等を備えた地域福祉サービス活動の拠点として、平成六年度に引き続き仮称南部福祉会館を整備します。この施設は、地区図書館、地区体育館を併設した複合施設です。

2、第一期ごみ埋め立て最終処分場は、平成八年度をもって限界に達することから、第二期埋め立て施設の整備を、平成六年度から三か年継続事業で整備しています。埋め立て予定期間は、平成二十三年までの十五年間です。

3、ばらの丘ハイテクパーク構想の幹線道路として西部丘陵と市街地を結ぶ都市計画道路八幡神社土屋線は、大きな課題である仮称日向岡トンネルの整備へと進んでいます。この事業は、膨大な費用を要することもあって、平成五年度から四か年の継続事業で整備しています。

4、相模小学校は、昭和四十二年度から四十六年度に神田中学校として建設したものですが、神田中学校の移転と相模小学校の新設により、相模小学校の校舎として使用してきました。しかし、すでに老朽化が進んでいるため、校舎の整備をします。

5、本市は従前から計画的に、地域の自主防災組織の協力を得て、防災体制の充実に努めてきました。しかし、阪神大震災の教訓を得て、当面必要とされる資材を措置すると同時に、防災計画を見直します。

の湘南の都市づくり

平成6年度行政レポート

平塚市は、昭和63年度からスタートした新平塚市総合計画"HOTプラン21湘南ひらつか"を基軸に、いろいろな事業を展開しています。

平成6年度は、体育館や図書館を併設した複合施設南部福祉会館や日向岡トンネル工事の着手、平塚市聖苑や湘南ナンバーのスタート、大野子どもの家や新農業総合研究所の完成など、21世紀へ向けた大きな事業が展開されています。

それでは、写真による「行政レポート」を紹介しましょう。(写真はカラー印刷のため3月中旬に撮影したものです)

大野子どもの家完成

ぬくもりのあるログハウス（丸太小屋）

入口

「大野子どもの家」が四月三日（月）にオープンします。

子どもの家は、子供たちが自由に伸び伸びと遊び、創造性や連帯感をはぐくみ、健やかに成長することを願って建設されています。横内・山城・みなとに続き、この大野子どもの家が四館目となります。

建物は木のぬくもりがあるログハウス（丸太小屋）で、室内にはつり輪や卓球台などがあるプレイルーム、オセロゲームなどができるゆとりコーナー、図書室などがあります。また、屋根裏には雨の日でも遊べるよう室内アスレチックが、屋外には回転すべり台などの遊具があります。

利用できるのは、小・中学生と、付き添いのある幼児、および青少年育成団体で、開館時間は午前十時（小・中学校が休みの日は九時）から午後五時まで。

新港の建設が進む

東防波堤、南防波堤、西防波堤などの外郭施設工事進む

ビーチセンター

月のオープンを目指してボードウォーク北側に建設中のビーンター。外観は波をイメージしています。建物の中には、ビスポーツの用具を貸し出す事務室や、温水シャワー、売店、室、ライフセーバーの詰め所などが設けられます。

完成は平成8年春
南部福祉会館の建設を

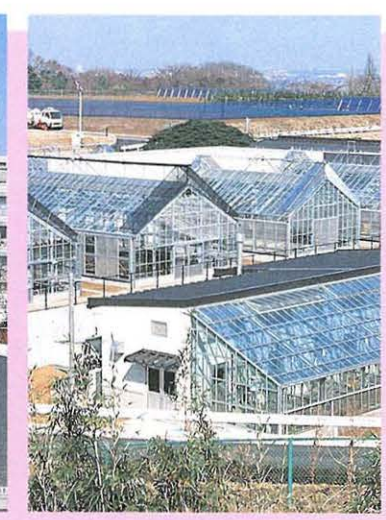
高齢化社会に対応するための地域福祉サービスの拠点となる福祉施設と、生涯学習の拠点としての図書館、体育館を併設した複合施設「南部福祉会館」を建設中です。場所は袖ケ浜で、完成は平成8年春の予定です。

お年寄りの健康増進や教養、レクリエーションなどに利用していただく老人福祉センターは、建物の2階部分に設けられます。中にできる集会室は、約56畳の和室（170人収容）で、カラオケや舞踊を楽しめます。松林の緑が眺められる浴室や囲碁、将棋、茶道などを楽しめる和室もあります。

デイサービスセンターは1階で、障害を持つお年寄りのための装備を備えた浴室や、リハビリを行う日常動作訓練室、食堂などがあります。機能回復訓練用の温水プールは地下1階で、水の力を利用したさまざまな機能回復プログラムが行えます。

南図書館は、中央館、北館、西館に続いて建設されるもので、2階・3階に設置されます。お年寄り向けの図書や海に関係した資料を充実させる予定です。

体育館は、公民館に設置されているものとほぼ同じ規模のものが建設されます。



新農業総合研究所が完成

21世紀に向けた活力ある農業の総合的研究開発を進めようと、吉沢地区に誘致した県の農業総合研究所が完成しました。

この施設は、今まで市内寺田縄にあった農業総合研究所や、二宮町にあった園芸試験場、海老名市にあった蚕業センター技術研究部を統合し、さらに新しい農業のシンクタンク的役割を担うことを目指しています。

地上5階地下1階建ての本館にはオープンラボラトリー（公開実験室）が設けられ、農家のみなさんに開放されます。また、栽培温室や人工気象室などの実験棟、研究ほ場、資源リサイクル施設なども設けられます。これらの施設で、バイオテクノロジーや最新の機械技術などを利用した研究や、農業情勢の分析・予測などが行われることになっています。

きらめく海　緑の丘　創造とうるおい
進む新しい街

平塚市聖苑の正面玄関

聖苑が完成
環境にやさしい施設

建て替えを進めていた平塚市営火葬場が、名称も「平塚市聖苑」と変更し、３月15日完成しました。

これは、昭和38年に竣工した平塚市営火葬場が老朽化したため、平成４年度から建て替え工事を進めていたものです。昨年６月から施設は稼働させていましたが、同じ敷地内の旧施設を利用しながら建設されていたため、その取り壊しや庭園など周囲の造成工事が残っていました。

新しい建物は、会葬される方の心理を考え「告別」「見送り」「収骨」それぞれに独立した空間を取り入れ、外観や、内部の照明、内装などにも配慮した施設になっています。

明るい待ち合いロビー

エントランスホール

待ち合い室は8室ある

湘南ナンバースタート

車検場には湘南自動車検査登録事務所など5つの事務所がある

検査棟　総合判定は約15分で終わる

平塚の新しい看板として期待がかかる「湘南ナンバー」を交付する新車検場が、昨年十月東豊田にオープンしました。

場内には、湘南自動車検査登録事務所など全部で五つの事務所があり、それぞれが湘南の明るいイメージに合わせ採光や外観に配慮しています。

また、事務所内を行ったり来たりしないように分かりやすい案内表示やワンフロアシステムなどを採用しているほか、自動車の新機構に迅速に対応できる最新設備も導入しています。

子どもの家は

大野子どもの

年末年始です。
・住所　中原3丁目5番22号
・電話　32－六九六〇

日向岡トンネル工事

西部丘陵と市街地を結ぶ平塚市の骨格的機能を有する道路として整備が進められてきた八幡神社土屋線。この路線の大きな課題だった日向岡トンネルの工事が昨年から始まっています。

第一期工事（二車線）分の開通は平成十年四月以降になる予定です。現在、全長五百五十五メートルになるトンネルの三百メートルほどの地点（旭陵中下付近）を掘り進んでいます。

トンネル工事は300メートル進んでいる

レクリエーションとの共存を目指して、漁業や遊魚など多様な機能を備えた新しい港を外海に建設しています。平成六年度までに外郭施設として防波堤、護岸合成しています。

すべて完成するのは平成十三年度の予定で、完成後は漁業のみならず、観光漁業の基地として、マリンレジャーの拠点となります。

東豊田ポンプ場完成

昨年十月に完成した東豊田ポンプ場は、市内西部地区から流されてくる汚水を四之宮にある処理場に送るための中継所です。

現在、工事が進められている金田、岡崎地区などを合わせ、約十四万人分の汚水を圧送します。

人口の増加が著しく公共下水道の要望の多い旭地区や金目地区も平成八年度から工事が始まります。

このポンプ場の完成で、平塚市の下水道事業がまた一歩前進しました。

遠藤原最終処分場

ごみを燃やした後の灰や、粉々に砕かれた燃えないごみなど、ごみの最終的な行き場となるのが遠藤原一般廃棄物最終処分場です。第一期分の埋め立て地がもうすぐ満杯となるため、第二期分の用地を確保するための工事が進められています。

発見！新しい公園

「人・水・緑、出会いの広場」をテーマに、子供たちが水遊びできる「波の泉」や、夜になるとライトアップされるオブジェが設置された公園です。

また、花壇が大小合わせて十か所あり、訪れる人の目を楽しませています。

▲波の泉は子供たちの水遊び場

なでしこ公園

▼花壇は10か所ある

犬・猫ストップ

砂場で遊ぶ子供にとって、犬や猫のふん・尿は、とても不衛生です。

そこで、老松町公園や長持かすみ町公園では、犬や猫が入れないように砂場をフェンスで囲い、子供たちが安心して砂遊びができるようになっています。

新しい遊具も

なでしこ公園

虹ヶ浜西公園

菫平公園

あずまや風トイレ

北金目にあった簡易水道の水源を利用して二百メートルの流れや池を造り、あずまや風のトイレなど、昔の田園風景を再現したような公園ができました。

そのほかの公園にも、新しい遊具が設置されているので紹介しましょう。

金目親水公園

春の空気を味わおう

湘南平へ行こう

眺めを楽しむ

神奈川の景勝五十選にも選ばれている湘南平。昭和三十四年にはレストハウスがオープンし、観光名所としてたくさんの人が訪れるようになりました。しかし、建物の老朽化が激しくなってきたため、平成五年から周辺の整備と合わせ工事が進められてきました。

新しくオープンしたレストハウスの一階は売店やトイレ、二階はレストラン、屋上は展望台になっていて階段のほかエレベーターでも登れます。この展望台には、展望ハウスが設けられ、一番高い所は十五・一メートルあり三百六十度の大パノラマが楽しめます。

湘南平

湘南の海岸線や大島などの島々、富士山や箱根連山から丹沢の山々まで見渡せる眺望の名所。春には約二千本の桜やツツジの花見、アスレチックコースの利用など、たくさんの市民に憩いの場として親しまれています。標高百七十九メートル。

▽交通　平塚駅北口バス12番線「湘南平行き」終点

レストラン

より多くの利用者に喜んでいただけるよう幅広いメニューをそろえたレストラン。いす席を六十席用意し、午前十時から午後九時まで営業しています。

また、売店は飲み物、菓子、おみやげ品などを取り扱っています。営業時間は午前十時から、午後六時までです。

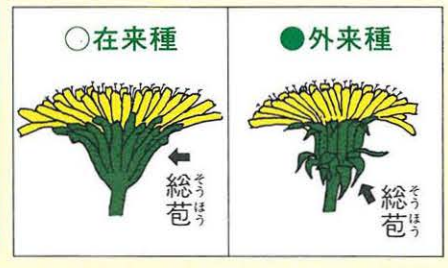
春の自然観察　タンポポを調べよう

道端や土手、田畑のあぜ道に黄色い花を咲かせるタンポポ。陽の光をいっぱい吸い込んだようなその姿は、私たちの心を明るくしてくれます。このタンポポを観察してみると、身の回りの自然環境がどのような状態にあるのかが分かってきます。

分類の決め手

タンポポには、もともと日本列島に生えていた在来種（平塚ではカントウタンポポ）と、明治時代にヨーロッパから入ってきた外来種（セイヨウタンポポ・アカミタンポポ）があります。

分類の決め手になるのは総苞の形（左図参照）です。総苞が、めくれているのが外来種、そうでないのが在来種です。



種類と地域は

アカミタンポポは市街地でよく見かけます。舗装された道路のすきまなどにたくましく生えています。同じ外来種でも、セイヨウタンポポは市街地周辺の空き地や駐車場、新しい道路の端などで多く見かけます。

このセイヨウタンポポは、食用にするため持ち込まれたものが広がったのだと考えられています。

在来種のカントウタンポポは、市内西部の丘陵地帯の段々畑の土手や果樹園の下など、昔ながらの景観が保たれているところで多く見かけられます。

平塚ではこのように、市街化の進んでいる地域から自然が残る地域へ向け、アカミ、セイヨウ、カントウというドーナツ型の分布をしています。

不思議な動き

タンポポの花が夜閉じることはよく知られています。カントウタンポポで開花後約三日間、セイヨウタンポポで約二日間開閉します。

花が終わったタンポポの茎はいったん横に倒れますが、実が熟してくると再び立ち上がって花のときよりも高く伸びます。これは、実が未熟な時には鳥に食べられるのを防ぎ、熟した実は遠くへ飛ばすためであると考えられています。